平成28年度認定 Vol.02

岐阜県子育て支援エクセレント企業

仕事と家庭の両立支援の取り組みを実践する企業を紹介！

岐阜県では、2011（平成23）年度から、従業員の仕事と家庭の両立支援や女性の活躍推進等について優良な取り組みや、他社の模範となる優良な取り組みを実施する企業を「岐阜県子育て支援エクセレント企業」に認定している。今年度新たにエクセレント企業に認定された企業の取り組みをシリーズで紹介する。

公私ともの充実で相乗効果

三承工業（岐阜市 建設）

子どもの横で仕事をする山田更紗さん（右）。チャイルドマインダーの資格を持つ西園麻衣さん（左）をはじめ、社員全員で子どもを世話する。

子どもを連れて会社に行くことができるカンガルーシティ化推進を目指した施策を検討。ノー残業デーや出勤の実施や、社内でのキッズスペース設置など、出産でキャリアを中断することなく働ける環境を整えている三承工業。5カ月と2歳の9児とともに出勤して建設業で女性も活躍できる職場風土を改革するため、女性管理職30%以上の目標に初めて出会った。周りも家族のように育児をサポートしてくれる」と、働きやすさを語る。

いる山田更紗さんは、「子どもまだ小さく、託児所に預けるのも不安を感じていた中、一緒に働ける会社

「夢子」を結成し、ダイバーシティ化推進を目指した施策を検討。ノー残業デーや休日出勤の削減など、社員の意見から制度を生み出しとなく働ける環境を整えている。特に、男性中心の建設業で女性も活躍できる職場風土を改革するため、女性管理職30%以上の目標に初めて出会った。周りも家族のように育児をサポートしてくれる」と、働きやすさを語る。

2016年からは、育児中の男女を中心に「チーム

最年長の木村さんが、社内外問わず人生のよろず相談を受け付ける「人生相談課」を担当。

行う姿も見られ、仕事への意識も向上した。

さらに顧客に対しても、子育てにやさしい家づくり

の提供したいと、子育て中の母親から意見を抽出した「おうちプロジェクト」を始動。社内には誰でも利用可能な「人生相談課」を設け、年齢の担当者が多様な相談を受け付けるなど、会社を超えて広く子育て支援を行っている。

【三承工業】

2014年から保育園の休園時などに子連れで働けるカンガルー出勤を実施し、社内に専用キッズスペースを整備。率先して女性の意見を採用し、女性従業員増加や女性管理職比率アップを目指す。

人材を重視した職場づくり

社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院（笠松町 医療機関）

病院内託児所「エンジェル」では、毎日平均約30人の子どもを預かる。病児保育で体調が悪化した際は、小児科とも連携する。

病院内託児所を設置し、育児をしながら勤務し続けられる環境整備に取り組んできた松波総合病院。夜勤を行う職員のために、託児所では病児保育や24時間預かりも可能だ。利用は医師・看護師職員が利用している。

1982年と早期から

病院内託児所を設置し、育児をしながら勤務し続けられる環境整備に取り組んできた松波総合病院。夜勤を行う職員のために、託児所では病児保育や24時間預かりも可能だ。利用は医師・看護師に限られていたが、2016年度からは、それ以外の事務職や医療専門職まで利用対象者を拡大し、現在約70名の職員が利用している。

職員が育児休業に入る際には、独自に作成した文書で説明を行い、安心して支援が受けられるよう配慮。その結果、育児短時間勤務の利用や、長期にわたる男性の育児休業・介護休業などの取得実績が増え、制度を利用しやすい雰囲気が築かれた。1カ月間の育児休業を取得したリハビリテーション技術室副主任の竹村育郎さんも「以前に育休を取った男性職員がおり、職場も理解があった。自分が休むことで妻が1カ月早く職場復帰ができ、私も育児の大変さを経験できてよかった」と振り返る。

さらに職員同士の交流を深めるため、親睦会を毎年

2カ月間の介護休業を取得した看護師北村直未さん。「上司や人事担当者が制度活用を勧めてくれ、介護に専念できた」と話す。

実施。希望者は子ども同伴も可能で、親睦を深めて互いの家庭事情などを理解することで、助け合う気運も育まれている。

また、出産や育児でブランクのある女性医師の採用にも力を注ぐ。松波英寿理事長は「近年、若い女性医師の増加は顕著で、活躍支援は不可欠」とし、教育やバックアップの体制を整え、さらなる採用に努める構えだ。

【蘇西厚生会 松波総合病院】

医療人材は資産と考え、病院内託児所設置や育児・介護休業取得など、職員が働き続けられる環境整備に注力。女性医師の採用など、時代に即した人材確保・定着を目指す。

無断複製・転載を禁じます